

The Hino citizen activities group contact meeting news № 10.

ひの市民活動団体連絡会ニュース10号

平成 20 (2008) 年 5 月 15 日
 発行：ひの市民活動団体連絡会
 代表・梁瀬 悦司
 編集：広報部会
 〒 191-0012 東京都日野市日野 1369-27
 Tel / FAX. 0 4 2 - 5 8 1 - 6 1 4 4
 E-mail:hino-cagcm@tokyo.email.ne.jp
 ホームページ：更新準備中

桜が散り若葉が芽吹くこの季節、ひの市民活動団体連絡会ニュース10号をお届けします。

☆ ○ △ □ ◎

第14回「ひの市民活動団体連絡会」 通常総会報告

平成 20 年 4 月 13 日 (日) 13:30 ~ ひの市民活動支援センターにおいて、第 14 回「ひの市民活動団体連絡会」通常総会が開催されました。

初めに、梁瀬会長から、ひの市民活動支援センターが移転して約 1 年たち、連絡会のやるべきことはなにか、活動の活性化のためにできること、参加団体協力・協働とは何か、あいかわらず模索が続いていますが、年々少しずつ具体的になっていると感じます。これまでどちらかといえば「べき論」が中心でしたが、実践的に連絡会の活動を続けていこうとの挨拶がありました。次に、河内副市長の挨拶のなかで、日野市では NPO の立ち上げを応援し持続可能であるための支援をしていること、連絡会の発展を期待していること、市内では連絡会に対する認識が高まってきたことなどのお話がありました。日野市からは企画部高橋部長と、地域協働課は松本課長はじめ 4 名が出席されました。

加盟団体数 28 のうち 19 会員の出席で総会の成立を確認ののち、「平成19年度活動報告、会計報告、監査報告」、「平成20年度活動計画、予算」、「役員人事」、「事務員雇用」、「参加団体の更新状況、新規加入団体、ねんも公園清掃」等の議事について審議、意見交換ののちすべ

て承認されました。

総会に引き続き懇親会が開かれました。懇親会には地域協働課職員も若手が残り、新規加入団体を交えた楽しい意見交換を行うことができました。



通常総会から

(本田真弓広報部員 記)

★ひの市民活動団体連絡会主催講演会報告★

「市民活動支援組織のあり方」

平成20年2月3日 (日) 生活保健センター講座室での講演会は、講師に多摩NPO協会の橋本正晴氏をお招きしました。朝からの雪模様にも拘わらず、19名の市民と行政から4名、計23名が熱心に聞き入りました。

今NPOに何が求められているのか。NPO法人化のメリットと義務について。また、NPO法人化しないことによるメリットとデメリットについてもお話しされました。多摩市では54団体が“運営協議会”に加盟し、NPO・行政・企業とのコーディネーターとしての役割が求められ

ているとのことでした。中間支援組織は、活動のコアをしっかりと持つ事と事務局長の存在をしっかりとさせることが大切とのアドバイスがありました。質問の中には、NPOの会計の仕組みと中間支援組織に各団体の会計相談の役割を求める声もありました。

ひの市民活動団体連絡会は、各団体の活動をしている人が各部会に入り運営しています。NPO・行政・企業とのコーディネーター役を果たしていくためには、市民活動の必要性を理解している専門のスキルをもった人のいる中間支援組織の存在が不可欠だと感じました。(日野子育てパートナーの会・中川)

第5回NPOフォーラム3/9「本当の協働とは何か」



ワークショップが終わってグループ報告

【コメント】 今年のフォーラムは、去年に続いて2回目の参加となりました。当日感じたことを書きます。一定程度の実績が積み重ねられてきたこともあり、やってみた結果としての課題の検討にステージが移ってきているのではないかと思います。

市内でもさまざまなNPOが力をつけてきていることから、行政が、協働を安上がりな委託事業ととらえることなく、NPOを対等なパートナーとして考えられるような雰囲気が、いよいよ現実的になってきているようです。NPOそれぞれが活動理念を明確に打ち出し、行政がそれを前例にとらわれることなく適正に評価する。そして、各団体の思いや個性がうまく生かされるような場が設けられることにより、今後ますます実りある協働が実現していくことと、期待をもちています。
(ドゥタンクたまじん・金井透)

フォーラムの成果をふまえ「情報交換会」の前に6月22日に再び行政とのワークショップを予定！

第5回NPOフォーラムのワークショップを分析すると、市民活動団体には企画段階での事業の協働参画が少なく、委託契約の仕様書が確定してからでは、市民活動団体の持ち味を十分活かさないのでは、連絡会と地域協働課が接着剤になってNPOと行政の情報共有を図り、協働の企画を一緒に考えるべきが結論だった。企画の生の交換で、企画力の充実を図る必要があるわけで、スピードとタイミングを生かせる仕組みづくりが大事となった。

このことを事業部会で検討した結果、文章でやり取りする例年8月の「情報交換会」の前に、生の企画の自由提案をするために、行政と横断的な会(ワークショップ)を6月22日(日)に開催する計画を立てた。市民活動団体も行政もそれぞれの使命を含めた情報発信・情報共有が必要で、そこから「情報交換会」の企画書としてまとめ上げていければと考えている。(梁瀬 悦司)

NPOフォーラムに参加して

先日初めてワークショップ形式が何かもしらず、第5回NPOフォーラムに参加させていただきました。

“work shop” = 所定の課題についての事前研究の結果を持ち寄って討議を重ねる形の研修会(広辞苑)とありました。

あらかじめ共通の繋がりある団体と行政がひとつのテーブルを囲み、介護、子ども、文化、環境に関係したものが私達のグループでした。NPO団体と行政がいかに上手くコミュニケーションをとり、良好な関係作りの上に同じ目的を持ち、情報と責任を共有し課題を解決していくプロセスが大事なことを改めて感じました。

ファシリテーター(引き出し役)の上手誘導で飾らず気分よく発言し、受け止めて頂いた事と発言者の皆さんから、多くの刺激とヒントを頂いたことを、私たちの活動に活かしていこうと思いました。

(日野たすけあいワーカーズBeすけっと 櫻庭 かず代)

平成19年度ひの市民活動団体連絡会決算書より

一般会計

収入の部	
会費収入	84,000
市民活動支援受託	1,465,500
活動収入	191,716
雑収入	104,494
入居団体電気代	108,759
収入計	1,954,469
前年度繰越金	330,454
合計	2,284,923

支出の部

センター管理	1,259,169
設備費	55,380
フォーラム開催費	21,879
中間支援組織交流会	16,366
セミナー開催費	13,100
金曜サロン開催費	16,248
ニュース発行費	71,807
IT接続関係費	17,535
パンフ作成費	53,970
パネル作成費	24,000
研修費	2,780
IT教室整備費	84,560
雑費	71,126
入居団体電気代	108,760
支出合計	1,816,680
次年度繰越金	468,243
合計	2,284,923

特別会計

収入

携帯講座受講料	146,000
携帯講座補助金	268,000
パソコン受講料	248,000
年度内収入合計	662,000
前年度繰越金	0
合計	662,000

支出

携帯電話講師謝礼	225,605
携帯テキスト印刷費	90,262
携共催団体分配金	44,750
パソコン講師謝礼	176,145
通信費・雑費	14,370
年度内支出合計	551,132
次年度繰越金	110,868
合計	662,000

* 決算案・予算案はすべて承認されました。

○▼□参加団体活動紹介○▼□

◎日野子ども劇場

「文化豊かな環境のなかで感性と生きる力が育ちます」

日野子ども劇場は、1982年に立川子ども劇場から分割独立し、地域の人たちの協力を得ながら、子どもを中心に据えた多種多様の活動を展開し、28



人形劇の鑑賞

年目を迎えています。2004年5月にNPO 法人格を取得しました。

「文化豊かな環境で育まれる感性は、『生きる力』に繋がる」と考え、人と人が関わり合うことにこだわり、子どももおとなも、たくさんの方が参加できるような体験の場を大切に作っています。

子ども劇場の活動内容としては、大きく分けると二つにな

ります。劇を観たり、音楽を聴いたり、生の舞台芸術（舞台劇、人形劇、音楽、伝統芸能、パントマイム、など）に触れる場を体験しながらゆったりとした時間を過ごす、鑑賞を中心とした活動がひとつ。次にふたつめとして、子どもキャンプ、子どもまつり、そりあそびなど子ども達自身が作り出す中から、自分の言葉や身体で自分を表現する力を育む事を中心とした活動があげられます。ここ数年は、地域の活動にもできる限り参加をしています。また、教育委員会や日野市市民会館文化事業協会の共催や後援を得たり、ひの市民活動団体連絡会の団体と協力関係を持ちながらの活動も増えています。



日野市子どもまつりに参加

子どもを取り巻く社会の状況は益々悪くなる一方ですが、多くの人と手を取り合い、子ども劇場の活動を広げていきたいと思えます。

セミナー・学習会参加報告

人を動かすプレゼンテーションとは

市民活動を進めるには多くの人の支援が必要です。人々の協力を求めたり、行政を動かし協働を働きかけるには説得力あるプレゼンテーションが必要です。

去る3月14日、マイクロソフト社が開催したNPO支援活動の一環としてパソコン活用力向上のセミナーのプレゼンテーションカアアップに関する分科会に参加しました。講師はマイクロソフト社Office製品マーケティンググループの飯島圭一氏。その要点を筆者なりにまとめてみました。

人を動かすプレゼンテーションとは、ストーリー性があること、見た目、そして相手を知ることである。

最も重要なことはストーリー性があること。相手に理解してもらい、興味を持ってもらい、そして行動を起こしてもらい筋立てを作ることである。そのために、まず目的とゴールを明確にし、伝えたいことを論理的に整理し、説得力あるデータを活用した資料を準備することである。ストーリー性が乏しいと途中で相手の聞く気が失せてしまい、何をしたいのか分からないという結果に終わってしまう。

見た目とは、相手を惹きつけるプレゼンテーションのテクニックである。資料を配布するよりも、パソコン画面などを相手と一緒にしながら説明するのがよい。時にタブレットなどを使ってパソコン画面に書き込みをしながら説明をすると相手を惹きつける効果が格段に向上する。

相手を知るとは、相手についての情報を事前にできるだけ収集

しておくことである。プレゼンテーションはAway(相手本拠地)における戦いと心得る必要がある。事前の情報が勝負を分ける。

プレゼンテーションで欠かせない要素はKISS(Keep It Simple and Specific)。プレゼンテーションは簡明であること。背景が分かりやすく、相手に何をしたいのかを明確にし、相手にとっての利点は何かを示すことだ。(湯口 裕)

「団塊世代ウエルカム！日野」参加報告

日野団塊世代広場主催の標記イベントに、ひの市民活動団体連絡会として参加した。

2月24日(日)、福祉支援センター、3月16日(日)、多摩平の森ふれあい館で、この両日、展示や話し合い、各団体の報告などが行われた。連絡会はこのイベントのために製作したパネルの前で、これからリタイアする市民に対し、連絡会として何ができるのか、会員の市民活動団体にはどのような種類と活動があるのか、行政と指針づくり、協働のための情報交換会などの実績を説明した。

このイベントで日野市内のいろいろな団体が団塊世代に呼びかけていることがわかったが、当日、団塊世代の人たちの参加が少なかったのは残念だった。(梁瀬 悦司)



平成20年度地域協働課の事業

地域協働課長 松本 義行

2月1日付けで地域協働課に参りました松本です。

平成20年度に日野市が取り組む主要事業のうち、地域協働課に関連する事業としては、

- ①市長とふれあいトーク
- ②NPO法人等への仕事斡旋紹介等支援
- ③旧平山台小学校の跡地活用による平山台健康・市民支援センター開設
- ④地区センター建替・修繕計画に沿った施設の充実
- ⑤地域懇談会の充実・地域かわら版の発行等
- ⑥消費者相談業務の充実（予防対策の拡大）
- ⑦地域サポーター制度の充実

⑧落川交流センターのバリアフリー化工事と盛り沢山にあります。

地域協働課では、地域での住民相互の連帯が弱まり、地域力が低下してきていると言われている現在の状況を考えると、自治会等の活性化を図り、地域のコミュニティ活動を盛りあげることが急務と考えています。このことにより、地域の日常生活が円滑となるだけでなく、防犯面、防災面にも役立つことから、優先して取り組む重要な事業と考えています。

今後は、順次、取り組みを進めて参りたいと思います。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆◆事務局だより◆◆

* 会員団体の状況

● 入会

4月から「こぶた座」、「日野走友会」の2団体が新しく入会

「こぶた座」は、支援センター内（A）を事務所として使用します。

● 退会

「日野の自然を守る会」は3月31日退会

* 西側外部倉庫(プレハブ倉庫)の使用開始

● 倉庫内部の片付けが終わり利用を開始。

利用に当たり、次の点を確認してください。

1. 鍵の管理は事務局で行う。
2. 倉庫の利用は申込用紙に記入の上、事務局に提出し、世話人会の許可による。
3. 倉庫の利用は、清潔に行い、危険物などを置かない。
4. 使用料、管理料は無料。
5. 倉庫の利用は会員のみとする。
6. 退会時は、荷物を撤去する。

* 支援センター一斉清掃とねんも公園一斉除草

● 全団体参加の支援センター一斉清掃：

5月25日（日）9時～12時（雨天決行）

● 全団体参加のねんも公園一斉除草：

6月15日（日）9時～11時（雨天は一週後に延期）

参加をお願いします。

* 利用ルール徹底のお願い

支援センターを利用した際には、利用日誌を記入する決まりになっていますが、時々記入されていない団体があります。

事務局は平日の午後しかおられませんので、それ以外の利用については、参加団体の皆様の自主的管理になります。

支援センターからお帰り時に必ず利用日誌を記入のうえ綴じ込みをお願いします。

団体のなかには、会員に支援センターの利用ルールが徹底されていないと思われるケースがあるように思えますが、今一度、利用ルールの徹底をお願いします。

* キーボックス暗証番号の変更

● 番号は、平成20年6月1日午前8時に変更。

変更後は、新しい番号で操作してください。

* 平成20年度事務局員継続

平成20年度の事務局員は、平成19年度に引き続き、山本克治郎・山崎恵子の2人がつとめますので、よろしくお願いいたします。

ひの市民活動団体連絡会[イベントニュース]の発行！ これまでの本紙掲載の「参加団体イベント案内」を中止し、新たにタイムリーな情報媒体を発行します。詳細はお知らせをご覧ください。

編集後記

「お母さん、『NPO』ってお金儲けが下手な人たちってこと？」ある日、子どもが親の姿を見てきた結論として、質問してきた。「うーん、お金よりも他の価値が大好きな人たちかなあ。おもしろい人たちがいっぱいいるよ。」現在、<みんなちがってみんないい>個性豊かにお互いを尊重し合える連絡会の仲間が28団体となった。行政の皆さん、魂を入れて市民の声を聴き、お互いによりよい協働にしていきたいと思います。（落合）